

令和5年度 南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和6年2月28日（水）午後2時00分から午後4時00分まで
会場	新潟市南区役所4階 講堂
出席者	南区自治協議会委員：24名（欠席5名） 事務局：学校支援課指導主事 南区教育支援センター所長、指導主事 南区役所：12名（地域総務課長ほか）
議事	1 説明 「新潟市の中学生のための地域運動活動・文化活動について」 2 質疑応答
司会	「新潟市の中学生のための地域運動活動・文化活動について」です。 それでは学校支援課から説明をお願いします。
学校支援課	皆さんこんにちは。新潟市教育委員会学校支援課の高見と申します。今、新潟市の中学生たちが今後、活動を目指していく地域クラブ活動について、紹介動画を新潟市のホームページに上げております。これは、今の中学生や小学生が一体どのように部活動や地域の活動を考えているか、というアンケート調査をとるために、まずは今、新潟市としてこのような方向で考えているのだよというのを知ってもらい必要があるため、この説明動画を作ったのです。この説明動画を見てもらって、皆さんどのように参加したいですか、または不安なことはありますかということアンケートで集めさせていただきました。まず、私の説明の前に、その動画で新潟市がどのように考えているかという辺りを皆さんからもご覧いただきたいなと思っております。その後、補足説明ということで、いくつかまたご説明したいと思えます。中身が小学生向け、小学生がおうちで親御さんと一緒に見てもらえるようなつくりになっておりますので、話し言葉等も子ども向けのものになっております。
	（動画の上映）
学校支援課	ありがとうございました。それでは、今ほどの動画に加えて、幾つかの補足説明ということで、私からお話しさせていただきたいと思えます。新潟市だけに限らず、全国的に人口減ということになっております。先ほどの数字にもありましており、区によってはもうすでに15年後は半減するということも明らかになっているところがございます。15年後になったときに、そのとき初めて部活どうしますかとやっては遅いのです。今、その辺りをスポーツ庁も文化庁もスポーツ部、文化部を今のうちから地域の活動に移していくことのメリットをうたっていたところのわけです。 それで本市の現状というところにおいてですが、確かに規模の大き

い学校では、まだ部活動が成立する、子どもの数もまだ大勢いるというような状況で、令和8年からを目途としていますので、令和7年までは通常どおりの部活を行いますという学校も中にはあります。ただ、小規模の学校においては、男子は野球か卓球の二つから選ばざるを得ない、女子もこちらの卓球、バレーボールから選ぶしかないという学校も実は中にあるわけなのです。今、昔と違いまして、必ず全員が入らなければいけないというところではないのですが、ただ、部活を選ぶとなるとここしかないという辺りが子どもたちの選択肢を狭めさせてしまっているということにもなるのかなと感じています。

新潟市もスポーツ庁がいうとおり、休日の部活動を地域に移行するということを想定した場合に、さまざまな課題が出てくるということも見てまいりました。まず通常、平日に顧問が部活動の指導に当たる。休日は指導者、地域の活動として指導者が当たるとなると、すでにテストケースで行っているところでも上がっている話題なのですが、教えている中身が少し違う、ずれてしまう。そういうダブルスタンダードの状況が起きてしまう。文化部も同様に教え方が違うという課題が出てくるわけです。また、部活動がいつまでも続いていると、会場があかなくなるわけですよ。そうするとその体育館を使用したい地域のクラブがあっても、なかなか地域の活動として動き出すことができなくなる。また、左下の部分です。これは休日だけに限りませんが、では部活動の指導者が教員でなくなればいいのかというところもあるかとは思いますが、教員から地域の方、専門の方に移ったとしても、子どもの数、部活動の子どもたちの数は変わらずに減り続けていくわけです。そうすると、チームスポーツや団体で何か文化活動を行う。そういった場合に、やはり人数が足りなくなっていて、どこかに活動を求めていかなければいけなくなる。実際、顧問のほうも、自分が顧問として部活動の指導に当たるのか、それとも地域の一員として地域活動の指導に当たるのかと。こういったさまざまな課題が浮き彫りになってきたところです。

そこで、新潟市はこの地域クラブ活動の推進協議会を立ち上げまして、大きな部活動の改革推進機関、この流れの中でどのように進めていくかということを検討してまいりました。その中で大きく二つ。休日だけでなく、平日も視野に入れた地域クラブ活動への移行を目指す。もちろん休日からまずスタートという団体があってもいいわけです。ただ、休日だけにこだわるのではなく、平日も一体として同一の指導者が長く子どもの指導にかかわれるというような場面を作っていく必要があるのではないかと。それと平日の教職員の勤務時間をきちんと管理して行って、学校の教育活動の充実を図っていくのだ。そういった辺りにさおさしながら進めていこうという方向で今、検討を進め

てきているところです。令和8年、これはスポーツ庁、文化庁が、今まずはここを目標にと当初打ち立てていた年に向けて新潟市も一緒にこの推進を進めているわけなのですが、ちょうどこの4月、中学校に入学する子どもが3年生になるときが、令和8年になるわけですので、今の段階からなるべく可能な限り、子どもたちに部活動なのか、それとも地域活動なのかということを検討できるような準備を急ピッチで進めていこうと準備しているところです。

こちらの次の図ですけれども、団体としてのパターン、こういったものが考えられるのではないかなというテストケースをいくつか挙げました。令和3年から新潟市も国の委託を受けまして、実践検証を進めてきていたところです。令和5年度は、27の団体が地域クラブ活動として進めてきていたところです。その中で実施主体はそれぞれのチームの指導に外部の指導者の方、競技団体であったり、または文化活動の連盟の方であったり、要は専門の方たちが指導に当たっているというケースがいくつか挙げられます。

そして、どのように運営されているかですが、実に多様な方法での実施が可能ということもあたりもいま見えてきたところです。完全に外部の指導者の方が団体を作り、指導も、運営も同時に行うというケースもありますし、また二つ目の段にあります、新潟市陸上競技協会が大きく運営に携わっているケースでは市内の中学生を対象に送迎ができる子、またはバス等の方法で来られる子は、だれでも来ていいですよというように、学校の枠にとられない活動も始まっているところです。また、例にある東区の大形中学校も保護者会と共同運営でということで、保護者会が運営母体となるケースもあり実に多様な実施形態が生まれてきています。実際に活動に参加している関係者の声を集めてみました。参加している生徒たちですが、他校の生徒と一緒に活動して充実しているというような回答が来ているところもあります。ただ、レクリエーション的な活動もしたいのだけれどというような課題が挙がっているのも事実です。

その下のほう、指導者の方たちです。いわゆる地域の指導者または協会や連盟の専門の方たちです。子どもたちの技能の伸びであったり、演奏のうまさであったり、そういった成長、向上を実感していて、自分もうれしいというような肯定的な回答がたくさん挙げられています。ただ、いくつか実際に活動しているときの子どもたち、生徒たちのけがへの対応はどうしたらいいのだろうか。そして、受益者負担ということで、おうちの方たちから月謝を集めたりするのだけれども、その集金額の設定の仕方、そういったところが難しいのだというような声も頂いています。

右上、保護者の方たちの声です。わが子がそういった活動に参加し

ているのを目の当たりにされているというところから上達を感じる他校とのかかわりが生まれている、そして、地域の指導者の方に対して感謝の気持ちを持つようになったという声も寄せられています。

学校の教員が兼職兼業で地域の一員として指導に当たるケースももちろんありますし、外部の方にゆだねているというケースもあります。生徒同士の多様なかかわりが生まれている、ご自身にとっても働き方改革になっているのではないかと。教えた人が教え、教わりたいという生徒が教わるというウィンウィンの関係になっているのではないかと。このような声も寄せられています。

実際にいくつかアンケートをとりまして、中学生の多くの子が満足している、自分がうまくなっているのを感じるという回答をしているのが特徴です。また、保護者の方からも満足しているまたはおおむね満足しているという回答が寄せられました、こちらのほうの活動に参加している保護者の方から、不満の声は、令和4年度の段階では、まだ寄せられていなかったというような状況になります。

これらの点をふまえて、スポーツ庁は、将来的には平日の部活動も。ただ、平日の地域移行を妨げるものではないと言っていました。が、これまでの整理の中で、新潟市では現時点では、令和8年度から平日の16時45分以降、それと休日、ここはもう部活を行わないという方向で準備を進めています。つまり教員の勤務時間内でやれる活動であれば行うということになります。ときどき、部活動が完全になくなるのかというようなお話も聞かれますが、学校の中にはもうすでに16時45分まで学校の部活というような位置づけではないのだけれども、みんなでいろいろな運動を繰り返し行うような活動を行うという学校もありますし、または委員会活動ということで文化活動的なもの、また委員会活動的なものを4時45分まで行うということを考えている学校もあると聞いています。このように、平日の16時45分以降、それと休日、ここの学校施設を開けることが、地域クラブ活動の入ってくる余地としてスペースができてくるのではないかと考えているところです。昨年の南区の教育ミーティングのときにも出した図ですが、現在は学校において部活動に参加している子が大変多くいるという状況です。ただ、学校の部活動には入らずにさまざまな団体が用意している活動や既存のクラブチーム、民間の団体に入っている子たちも現状でもいます。それが令和8年をまず目途としながら、そういった外部の活動に参加していく子たちが増え、子どもたちを受け入れてくれる団体が増えていく。また、学校の部活動を母体とした活動も今後、予想されます。今、例えば学校のバスケット部でそのメンバーのままに顧問がつくのではなく、保護者会が地域クラブとして興していく。そこに指導者の方に入ってもらったり、または学校の職員が兼

職兼業ということで指導に当たったりというような、部活動由来の活動も今後、想定されるのではないかと考えています。

子どもたちへのアンケートでどんな活動をしてみたいか問うたところ、新潟市は以前からバドミントンとか、卓球とか、そういうものが人気なのですよね。こちらのほうでも、区によってまたばらつきもあるのですが、このような形で今、人気といいますか、やってみたいと回答した種目や活動が挙げられました。今、それぞれの団体や活動の連盟、協会に、私たちが今、各それぞれの区によってこういう希望の数がこれくらい来ているという現状をお伝えしたり、またはお願いに上がったということで、今後、進めていく方向で今、考えています。

またその活動に対してどのように取り組みたいかという質問もさせてもらいました。部活動ですと、どうしても勝つということですか、上手になって金賞というような競技志向や上達志向があるのですが、子どもたちに聞いてみると、レク志向ということで、楽しみながらこの活動に参加してみたい、やってみたいというような声が出てきているのも事実です。各協会や連盟が入るときに、もし新規で立ち上げというようなお話になったときに、このようにレクを求めている子どもたちの声もあるのだということも伝えていきます。

令和8年度に向けて、今、私たちが考えているパターンというのが大きく三つあります。まず一つ目は、既存の団体。こちらから受入可能の声をあげていただけたらなと思っています。もう一つは、新設される団体です。先ほど申しましたとおり、各競技団体や連盟、文化活動、吹奏楽連盟だったり、茶道や美術といったところにも今、いろいろお願いや情報提供しているところなのですが、そういった方たちが新規にもし可能だということで受け入れてくれる、体制を作ってくださいるのであれば、そういったところも今、想定しているところです。また、教員の中にも部活動を中心にそういった活動で、子どもたちにスポーツを教えたい、文化芸術に触れさせたいという教員がいるのも事実でございます。そういった教員が自分で団体を立ち上げたり、兼職兼業という立場で指導に当たったりというようなケースも三つ目として今、想定しているところです、このようにして、子どもたちが活動できる環境を作っていくところが今、キーになるのかなと思っています。この図も先ほど少し出てきましたが、この平日の16時45分に学校が終了するところが多ございますので、大体17時から19時、ここをジュニア専用枠として地域クラブ活動に提供できるようにしていく。そして休日も部活動ではなく、ジュニア専用枠として地域クラブ活動が実施できるというものを令和8年度、ここを目標にしながら準備を進めていきたいと思っています。もちろんまだ

部活が残っていたり、部活がベースになっていた地域クラブ活動がやっていたりという学校も実は中にはあります。ですので、そういったところは、ジュニア専用枠を使いながら、部活の時間をきちんと保障したり、または地域クラブ活動の時間をきちんと保障したりというようなところをふまえて進めてまいりたいと思っています。新潟市としても、立ち上げにかかる費用の補助を検討しているところです。3月の終わり4月には、このような一部補助があることを各団体にはお伝えできるようにしていきたいなと思っています。また、先ほど、団体リストというものを作成していくというようにお伝えしました。別に新潟市の地域クラブ活動に登録というほどのものではないのですが、そういったいくつもの団体、既存の団体だったり、新規の団体であったり、または教員が立ち上げるような団体であったり、いくつもの団体名が載るようなリストを作ることを目標としています。そのリストを見て、子どもたちが南区から選んでいたり、またはやりたい種目が西区にならありそうだとか、中央区まで送ってもらえるかなとか、そういったことも分かるようなものを作りたいと思っています。指導者リストも団体リストとは別に作ってこうと考えているものです。今、実際に幾つかの文化団体、競技団体に声をかけさせてもらったところ、新規の立ち上げは難しい。でも、どこかから指導者として入ってもらえないかという声があるのであれば考えることはできますよというような回答も頂いています。そういった方たちのリストを私たちの手で管理して、どこか要望のあったところには、私たちがこの指導者リストの中からマッチングできるようにしていける方法も今、考えているところです。中学生のための地域クラブ活動ということで、これまで部活動ですとその学校の生徒だけが週5日みっちりというようなものでしたけれども、これからは学校施設を中心に部活動のペースではない、週1回という活動もあると思います。いやいやうちは全国を目指すのだという地域クラブが出てくれば週5日というケースも中にはあるかもしれません。参加者もその学校の生徒だけに限らない。そういった活動を専門の方から教わる。そのような地域クラブ活動を目指しているところです。さまざま活動場所の調整ですとか、費用がかかるという辺りについては、部活動と変わってくるころはございますが、今、そういったところも含めながらどういう方法がいいのか検討を進めているところです。先ほど申しました団体リストになります。このほかに、例えば、この右側をたどっていくと、目指す方向、指導者連絡先、そういったようなものも、このリストの中に掲載して、子どもたちリストの中からやってみたいというのが探せるようなものにしていきたいと思っています。新潟市について言いますと、やはり地域の力を借りながらということになるろうと

	<p>思っております。行政としてこのようなつくりを考えているところで、令和6年度から地域クラブ活動推進室ということで、新たにこれに特化して支援をしていく部署を立ち上げるという方向で動いています。また学校にも2年で部活動をすぐ切るのではなくて、子どもたちの考えを聞いたり、実際の学校の様子を見ながらどのようにするか考えていってほしい。校長先生方の中には、実際に指導者がいないかというところで、その団体の地域化に力を貸している。その学校自身が総合型スポーツクラブになるような方法を検討しているところもあります。少し大きめの学校ですかね。その中で、地域の力も借りながら、新潟市総がかりで子どもが活動できる、活躍できるような環境を作っていきたいと思っております。</p> <p>ざっばくな説明になりますが以上になります。皆さんのお力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司 会	<p>それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。</p>
<p>豊木委員</p> <p>学校支援課</p>	<p>中学生が部活をやるのに自校でできないと。隣の中学なり、あるいはどこかの施設なりに行かないとできなくなるとなった場合に、その生徒たちの送迎の問題があると思います。例えば、私の住んでいるところの中学校から隣の中学校まで7キロとか、8キロとかあります。あるいはもう少しあるかな。冬場、雪が積もっているところでバスの送迎をしてくれるのだろうかとか、当然、夫婦共稼ぎの家庭では、親御さんの送り迎えは不可能なので、そうすると冬場、雪が積もっていれば自転車も乗れませんので、その辺、新潟市としてはどのようなお考えをお持ちなのでしょうか。</p> <p>ご質問ありがとうございます。今、おっしゃるとおり、新潟の冬を考えると、非常に難しいところだなと私たちも感じているところです。先ほど申しましたとおり、なるべくたくさんの方から立ち上げてもらう。そして、今の通っている学校に何らかの団体が入ってくることを私たちも考えて、いろいろな協会や連盟に声をかけさせてもらっているところです。その中で、子どもたちが選べるものが見つかるとうまいこといいなということがまず第一に考えているところです。ただ、どうしてもやはりほかのところへ移動しないとというような場面も出てくるケースもあるのかと思っています。すぐに令和6年度に、いわゆる交通手段と言いましょか、そこまで通う方法について、こういうことができるというような提案ができるものではないのですが、ただ新潟市としまして、どういったような補助ができるのか、どういったような支援の仕方ができるのか、検討を続けていきたいと思っております。</p>
司 会	<p>ほかにございませんか。</p>

<p>松尾委員</p>	<p>今、交通手段の関係が出たと思うのですが、そういうときにはバスを出していけるのかということと、どうしても怪我とか事故とかということも想定できますので、今多分、中学だと部活は保険が入っていると思うのですが、地域移行した場合の保険はどうなっていくのか。あとやはり平日は5時からやっているとか働きだとなかなか教える人が限られて、やはり定年になった人たちが中心になると思うので、土日は少し時間を広げて、活動できる場を指定して3か所くらい作っていただくなど視野を広げていかないと、なかなか私は部活動は難しいのではないかと思います。</p> <p>それと最後をお願いなのですが、やはり部活動はどんなに短くともいいから、各学校がメインにある以上、そこで存続していただいて、そこから活動の輪を広げさせていただけると、我々もそこに入っていくやすいのですが、全く全部お任せしましたよということになってくると、なかなか指導ばかりではなくて、申し込みとか、登録とか、いろいろな問題が出てきますので、その辺、学校で配慮していただいて、技術指導とか、そういうことについて地域に移行していくと。地域だって、多分上手になり県のトップ、そして全国に行きたい人と、それから中学になって初めてやって、心と体を鍛えて、感動を与えるようなスポーツ活動ができればいいという初心者から進める人と、多分、二つ分かれていくと思うのです。その辺をどのようにしていったらいいのかなと私は思います。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>まず1点目ですが、私たちもどんなパターンがあるのかなということを検討しているところではあります。各区にバスがあるかどうか、ドライバーがいるかどうか、帰りの時間帯にバスが使われていて、それ以外のバスということなのか、また民間に委託できる話か。民間のほうもバスの運転手になり手がいないというようなところを、私はニュースづてでしかないですけども、そのように聞いています。そういった実際に動くとなったときには、どういったような方法があるのかというあたり、今後の検討材料なのかなと思っております。</p> <p>二つ目、事故やけがということですが、学校の活動ですとスポーツ振興センターという保険に全員が入っておりますので、そちらのほうの保険の対象になるのですが、今年、先ほど言った実践検証として行っているテストケースに関しましては、やはり学校の活動外のものになりますので、それぞれスポーツ保険や安全保険にそれぞれの団体が加入したと。一人ひとりが加入したというようなところになっていきます。</p> <p>それと三つ目、休日の場の充実ということですが、確かに平日の活動の設定の仕方、働いていらっしゃる方にしてみれば、5時からやはり無理だというようなお声もたくさん私のほうにも来ていますが、5</p>

時半なら可能なのだとか、1時間6時からやろうよというように今、手を挙げてくださっている団体もいくつかあります。2時間みっちりというところにはなかなか難しいのかもしれませんが、柔軟な時間の使い方です。平日を考えている団体もいくつかあるというのが現状です。ただ、今、委員おっしゃったように、休日の使い方、ここはやはり工夫のしどころなのかなと思っています。休日の午前と午後を上手にセッティングしながら、たくさんの活動がそこに入れるというのは、一ついいアイデアのような私も気がしましたので、持って帰りたいなと思います。

四つ目、部活を残してほしいということでした。学校によっては4時45分までさまざまな活動を行うというところですか、部活を続けるというところも中にはあります。小さい学校ですとそもそもが部活として人数が足りていなくて難しいのだと。子どもたちがすでにクラブチーム等々に入っているのが把握できているので、部活というものは早々になくして、子どもたちが4時には家に帰って、自分の宿題とか、そういったものを済ませて、その後、クラブチームの練習に行くというような、自分で自分の生活サイクルを作っていくというのでしょうか、そのように考えている学校も中にはありました。ですので、やはり地域や区や学校や、それぞれのご家庭の状況によって、部活が残ったとしても参加するかどうかという辺りが決まってくるのかと思っています。

一点つけ忘れました。けが、保険の部分ですが、今、テストケースとして行ってもらっていた団体からは、団体規約を作ってもらっています。けががあった場合には、もちろん応急的なものはチームのほうですけれども、おうちの方に引き渡して、おうちの方から病院またはけがの対応をしてもらう。もちろん一刻を争うということであれば、一目散に救急車そのような約束ごとを団体規約として作りながら、おうちの方の了解も得ながら進めていると言うような実態でございます。

司 会
西山委員

ほかにございませんか。

すみません、三つ質問させてください。まず一つが、専門的な指導者から指導を受けられるケースもあるということですが、そうなると指導者への謝礼というものもかなり高額になると思いますが、それはもう所属する生徒の家庭が全額負担ということになるのでしょうか。

二つ目、既存のクラブチームが受け入れ団体となった場合、特にサッカーなどはクラブチームがたくさんあるのですが、けっこう月謝が高めなので、生徒の子どもを育成を目的としていても、営利団体というように今、そういう位置づけになっておりますが、そういったクラブチームが受け入れ団体となる場合は、学校の施設や設備、備品等も

<p>学校支援課</p>	<p>使えるようになるのでしょうか。</p> <p>三つ目は、同じ競技でも受け入れのクラブの体系というのが、いろいろ多様なものになると思いますが、そうすると現在でいう中体連の大会のような、中学生の大会というものはなくなっていくのでしょうか。以上三つお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。順にお答えしたいと思います。まず謝金についてですが、今、いくつか私たちのほうに自分たちが地域クラブとして立ち上げたいのだがというようなお話が来ています。現在、どのような運営状況なのかをお聞きすると、意外とボランティアでやっているところが多いのです。もちろんボランティアというのも、その団体の運営方針、経営方針でしょうし、お金をいくらか取って指導に入りますよというようにするのも、その団体の運営方針なのかなと思っています。ただ、中学生の活動であって、営利ではない、なるべく新たな活動になるようにということは、各団体に投げかけていこうと考えています。そして、謝金の設定も、もちろんその団体によるのですけれども、あまり高額にならないようにとこちらが呼びかけるよりも、その団体が選ばれるかどうか。高額であるけれども、全国を目指す一番の近道ですというようなうたい文句になるのであれば、それを選ぶ生徒やご家庭があるのかなと思っています。</p> <p>先ほど、少しだけ述べて、まだはっきりと申し上げられないのですが、団体立ち上げ補助というところで、それぞれの団体に新潟市として申請いただければ、指導者謝金の一部補助をできるような仕組みをこの後、議会に通そうと思っています。もちろん立ち上げ資金というところでうまく活動が進むようにというところに重きは置いているのですが、そういうところの補助を加えることで、少しでも受益者負担が軽減されることを狙っているところです。謝金がいくらかかかるといのは、ここまでのテストケースを見ましても、やはり1年目は何とか委託金の中で収めるのですが、2年目以降の団体になりますと、月謝月1,000円ずつ集めている団体もありますし、年間1万5,000円という団体もあったかと思っています。クラブチームのような莫大なお金ではない範ちゅうの中で、今、実際に動いているところが多いかというような現状でございます。</p> <p>二つ目です。クラブチームが出てくると、そこに対しての学校の施設利用はどうかということです。先ほど申しましたとおり、既存のクラブチーム、民間のクラブチームがますます発展するよなというところではもちろんございませんので、なるべく子どもたちが活動できる場を広げていきたいというのが主な目的になります。かといってクラブチームの参加を全く妨げるわけではありません。クラブチームが子どもたちの活動の場を広げたいのだという趣旨で入っていた</p>
--------------	---

だく。要は営利団体であっても、非営利目的の活動であったり、また非営利部門を立ち上げて、実際にその活動を展開されるのであれば、リストに掲載し、選択肢の一つとなっただきたいですし、そういった団体には、学校施設、先ほど言ったジュニア専用枠になりますけれども、そこを使える対象として考えていきたいと考えています。

三つ目、クラブの成立の仕方が多様化していくという中で、中体連の大会についてです。やはり中体連は別組織ですので、分かる範囲でしかお話しできませんけれども、例えば、全中であれば、昨年から学校単位の活動でなくとも参加を認める種目がいくつか出てきています。この種目であれば、例えば、指導者が3級以上のライセンスを持っていれば、全国大会、全中への参加が認められるとか、それぞれの市や県で認められれば、クラブとしての参加が可能であるとか、そういったようなものが種目ごとに細則として決まっているということで、昨年よりも今年のほうが少しそのハードルが下がってきているというようには聞いています。ただ、今後、日本中体連がどのような線を示してくるかという辺りは分からないのが現状です。これはニュースで出ていたので、皆さんもご存じかもしれませんが、競技人口の少ない種目に関しては、全中の種目では行わないということもちらっと聞きました。同様に文化活動のほうも、吹奏楽連盟の主催しているコンクールが、今までは学校単位であったのですが、クラブ単位での参加も認めるというように聞いたので、少しずつ緩和されているのかなと思います。

もう一つ補足になりますが、これは中体連とは違うことになりますが、さまざま種目や活動によって、全中ではないけれども、その種目の連盟や協会主催の全国大会というものが、どの活動にもあるというようなところから、そちらのほうに重きを置いて活動していくというように答えていた団体もあったので、一応、そのような現状だということでお知りおきください。

司 会
織田委員

よろしいですか。ほかにございませんか。

先ほどの説明の中のスライドの7ページになるのでしょうか、実践検証で参加者の声アンケート結果よりとあります。これは検証で地域クラブとして活動している団体に行ったアンケートですよね。そこで活動した生徒、そこに活動させている生徒を持つ保護者、そこで活動している指導者、かかわっている教員ということで解釈よろしいですか。この意見だけではなくて、現状の学校の部活動として参加している生徒たちはどのように感じているのかというアンケート調査はいかがでしょうか。その結果がもしあったら教えていただきたいです。それが一つ目です。

二つ目、スライドの5ページ目です。令和5年から8年度の新入生

の参加イメージ。これがもうすでに現小学校5年生の児童、それから保護者に対して、説明が行われたと聞いています。その時点で、現小学校5年生、令和8年度に入学する生徒たちですよ。その子たちは、地元の中学校では、もう部活はやらないのだと。ないのだというように説明を受けたと解釈しています。実際、地元の中学校でも学校の部活動としてはないですよというような説明もしたと伺っています。それに対して、やはり非常に動揺が広く広がっています。先ほど、皆さんが心配に思っいらっしゃる、学校で部活動はできなくて、ほかの中学に行く、ほかの施設に行く、一体本当に自分の子はそこまで自力で通えるのだろうか。なかなか自分の足では行けないし、それに対してどうするのだろうかという心配はもちろんあります。ご説明には、今後、令和8年の実施に向けて準備をしていくというお答えでした。ただ、実際、説明を受けて不安に思っている児童たち、それを抱えるご家庭には、今の現状でどの程度見通しがあって、整備が進んでいるかを示さないで、なかなか安心してもらえないのではないかなと思います。現状、どの程度また団体リストなり、指導者リストなり、現状はどこまで把握していらっしゃる、どこまで団体リストに登録している団体があるのか。それから交通手段については、こういう手を検討して、今、この段階で止まっているなどのもう少し親切なご説明があったほうがよろしいのではないかなと思います。以上について、お答えいただければと思います。

学校支援課

ありがとうございます。まず部活と地域活動に参加している子どもたちへのアンケートということなのですが、今、実際、中学生にもアンケートをとったところ。すみません、今、手元にデータがないのですが、子どもたちの活動を聞くと、やはり部活動で培ってきたようないろいろな経験は自分にとってよかったと回答している子は大勢いました。ただ、地域クラブ活動になったとしても、そういったような活動になるといいというような声もたくさんありました。私もそれぞれの団体の活動に少し個別に回らせてもらって、子どもたちに直接話も聞かせてもらいました。部活動と地域クラブ活動とどのような印象ですかと聞いたところ、今、平日部活動、休日がクラブ活動なのです。やはり言っている、教わる内容は違うのだと。困ることもあるのだけれども、でも、休日に専門の方から教わった内容を平日の部活動で活かすように心掛けているのだというように、その子は話してくれたのです。そういう意味で、やはりダブルスタンダードになるのは、やはり好ましくないとしながらも、子どもたちは柔軟に活動の意味をとらえて参加しているというような実態なのかな。アンケートからもそのような様子が見えがえします。

二つ目、今の見通しはというところなのですが、先ほど申し

ましたとおり、学校によって令和8年度も、または令和8年度以降も部活を続ける、または部活に代わる活動を続けるというように、答えている学校もあります。ただ、どうしても人数的なものから実施が難しい、子どもたちの行き場とか、学校によって決まってくるのかなと思っています。私たちも、安易に部活動をやめることだけを考えないでほしいということは学校に言っています。ただ、その学校の中でどれくらい4時から4時45分までの時間をとらえるかとか、活動が実際にできるのが30分程度としたときに、その後、5時以降の子どもたちの活動があるのであれば、それを保証するというように考えている学校があるのも事実です。そういった辺りで、今、学校にも働きかけているところです。

それとリストが今現状ではどの程度かというところなのですが、私たちもいろいろな団体に投げかけている段階で、明確なリストが手元にまだできていないわけではございません。ただ、この4月までにまずは第一弾をと思っています。数は非常に少ないものなのかなとは思っていますが、令和6年度からその充実をスタートさせていくと考えているところです。

最後の交通手段についてというところですが、今、私たちもどこが一番いい方法なのかということをお答えを出せずにいます。先ほども申しましたが、区のバスがあるのか、ドライバーがいるのか、民間にそういった余裕はあるのか。ゆだねる先があるのかという辺りをまだこれというように絞れないまま、ただ、候補は考えながら検討を続けていく必要がありそうだという辺りで今、推進室のほうで、日々、スポーツ振興課、文化政策課と一緒に方法を検討しているところがございます。

織田委員
司 会

ある情報を開示していただけたらと思います。

始まってから約1時間半となります。この問題、今の回答でもそうなのですが、まだまだ今、検討されている段階、あるいは課題抽出というような段階でもありますので、そんな話しの中では、やはり皆さん方の懸念材料もかなり多く残されているのではないかと思います。ちなみにどうしても今日は発言しておきたいという方は、あと何人ほどいらっしゃいますか。手を挙げてもらえますか。分かりました。では、ご質問はなしということでよろしいでしょうか。びっくりしました。これから延々と続くのかなという気がしたのだけれども、いいのかな、山坂さん。

山坂委員
司 会

あとアンケートか何かあるみたいですよ。

では、時間の関係もあります。この議事進行の関係で、一応、ご質問等についてはこれで打ち切らせていただいて、今、手元にありますアンケートに記載をしていただければ、また個別にご報告をさせていた

<p>山坂委員</p>	<p>だくということによろしいでしょうか。</p> <p>今後のこのような報告事項のときですが、説明にすごく時間がかかって、いろいろな人が質問したいようなことがあるときは、別な日に設定してもらうことはできないものなのではないでしょうか。というのは今日、事前に資料をお配りいただいて、南区の重点事業ですか。そういうものの説明もあるのに、こういう教育の問題とかというのは、けっこういろいろ疑問もあるでしょうし、質問や意見などは多いのだと思うのです。説明にすごく時間がかかって、今日の自治協議会、ほかの部分というのはほとんどできないわけです。こういう長く時間のかかるようなものは、全く別に、例えば、研修会なども自治協議会でやるので、研修とか、そういう意味合いのもので設定してもらったほうがいいのではないかと思うのです。その辺、今後ぜひ検討してみてくださいませんか。</p>
<p>司 会</p>	<p>先ほど、ご質問はこれで一応ないということで、これで打ち切らせてもらいましたけれども、今後、あらかじめ想定されるようなそういったケースの場合には、今、山坂委員が発言されましたとおり、対応を事前に検討させていただくこととさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、新潟市の中学生のための地域運動活動・文化活動については、これで終わりいたします。</p>